

＜投稿＞ 人間として 一人の日本人としてどうあるべきか 自らを問う

ある月刊誌で「戦後80年人間としてどうあるべきかを問う」という表題の論者に出会った。私自身戦後80年近くを生きてきて、厭世的な気分

に陥ったり、現実の政治に怒りや悲しみと共に無力感も持ってしまうことがある。そのおおもとに何があるか？この論者は、このことを考えさせてくれた。私自身へ問いかけでもあった。

戦後世代の日本人である私達は、戦争が終わってから「世界に恥ずかしくない市民として」新しい日本の民主主義を支える日本人として、個の確立、自己変革を追求してきたのだろうか？これらの点についてこの論者は「否」という答えを出している。

戦前戦中の日本人の行動「戦争一色に日本が染まっていったこと」「国民が戦争へと総動員されたこと」に「なぜ？」と問い「日本人の行動様式」と捉えている。

そして戦後の日本人も「戦争責任を曖昧にしてきた」「マスコミ操作やSNSの傾向に簡単に流される」など同じ行動様式ではないか？同じ根っこを感じる。と筆者は言う。

また筆者は知の巨人と言われる加藤周一を紹介している。加藤は日本人の戦争責任について発言を続けてきたと紹介する。「戦争は大衆操作と大勢順応主義が一緒になれば起こる」「戦後世代の戦争責任」について戦後生まれの日本人にも「間接の責任はある」「戦争と戦争犯罪を生み出したところの諸々の条件の中で、社会的、文化的条件の一部は現在も存続している。その存続しているものに対しては責任がある。」そして克服すべき四つの条件を

提起した。加藤も筆者と同じく日本人の行動様式としてとらえ克服すべきと提起した。この提起が「人間としてどうあるべきか」私自身を問う問いかけになっている。

第一 マスメディアを通じての「政府の大衆操作、世論操作に弱いということ、無抵抗だということ」

「だから、操作に流されないために、自分の持っている知的能力で、よく観察し、事実と突き合わせて分析して嘘は嘘だということを見破ることが必要です。操作に弱いということ自体が、戦争に対する責任問題を生じさせていることになる」

第二 「大勢順応主義」「大勢順応主義への抵抗は、少数派になる勇氣と同じこと。だから怖くても、少数派になる用意がないとだめだ。それが非常に大事だ。もしその勇氣がなければあるいは批判精神がなければ、それは戦争責任を果たしていないことだ」

第三 「鎖国の心理」「この国はまだ開いていない。人間に対する尊厳、平等の意識、それこそは鎖国を破ることで、戦争と戦争犯罪の根源にかかわること」

第四 「差別」「すべての差別は関連している。外国人に対する差別も女性に対する差別も人種による差別もみんな関連している。すべての差別とたたかわねばならない」

加藤の言う「大衆操作」「大勢順応主義」「鎖国の心理」「差別」に私自身つねに「あらがってきたのだろうか？」これら四点とたたかうことが「人間のあり方の根本」ではないか？自らを問うている。

文：T.Y

一九八四年八月二〇日 第三種郵便物承認 毎月二・二・三・四・五・六の日発行



でも？ しか？

日常生活の中でのいろんな場面や大事なことを決断する時など、私たちは「でも」「しか」の言葉をよく使います。例えば外出先に出かけ自当の店に行くとたくさんの方が並んで待ってられる時、せっかくなのでここでしか食べない並んで待つか、他の店でも探すか迷います。時間の都合もあり他の店で食すると

意外探した店でもおいしかったりします。又、何かを紛失した時も、ここにしか置いていないはずと決めつけたり、あちこち探したり、あげくの果ては誰かを疑ったりしてしまうことがある。でも少し冷静になると案外見つかることがある。又ふた昔前には、学校の教師が不足して、教師しかと思ってなった人やいや教師でもなってみようかというでもしか先生がありました。しか先生は立派な教育者に、でも先生も子供と接し教育のすばらしさを身をもって知り、この仕事こそと努力をして立派な教師になられたとのことです。

又、立ち話や会議等でも、しかを押し通すと話し合いがうまく行かない事があり、その場の雰囲気も良くない場合もある。でも人の意見をしっかり聞くと会も和やかになり、みんなも意見を言えるようになるのではないのでしょうか。また職業を選ぶ場合もこの職場しかとがんばるか、この職業でもと思い職に就くと本人のがんばりもありか？案外よかったと

社会福祉法人ふきのとう 理事 福島 昌子 思うこともある。障害者施設でこの子たちのためと頑張ってくださいる支援の方も、当初はここでしかと思って支援を毎日楽しく障害者と接している方と、この施設でも働いてみようかと思い毎日障害者と接しているうちにこの人たちの素朴さややさしい心に触れ、社会から疎外されがちなこの人たちのためにがんばらねばと思うようになった方も多いのではと思います。

この様に一般的には、しかは意志が強いと思われがちですが、でもは多様な考えを持ち実行力が弱いと思われがちですが、でもでもしかでも、自分の気持ちの持ちようでも変わっていくものだと思います。世の中には、いろんなことがあります、努力やがんばり、やる気など等なしでは、何事もうまくいかないのではと 思います。でも でもしかでもどちらも大事な言葉です。



“ふきのとう”では、障害者一人々の個性をしっかりとつかみ、きめ細かな支援をしていたいように思います。“ふきのとう”しかできない沢山の経験もさせてもらい、ありがたいことです。

編集人 社会福祉法人ふきのとう ふきのとう便り編集委員会
連絡先 〒632-0052 奈良県天理市柳本町 2036 番地 1 TEL 0743-67-1099 FAX 0743-84-7738
HP http://www.fukinotou.or.jp/
E-Mail fukinotou1099@fukinotou.or.jp
発行人 関西障害者定期刊行物協会 〒543-0015 大阪府大阪市天王寺区真田山町 2-2 東興ビル 4F 定価：10 円

ふきのとうの動き

令和7年
 12月15日 わかくさ福祉寄金より
 オープンレンジの助成
 12月23日 クリスマス会
 25日・26日 大掃除
 27日～令和8年1月4日
 冬季休業

令和8年
 1月5日 初詣・お節会
 2月12日 バレンタインイベント
 3月16日 健康診断
 3月18日 ホワイトデーイベント

菓子工房マカロンに New Face !

12月15日浄土真宗本願寺派西本願寺奈良教区の社会福祉貢献の一環として取り組んでおられる、「わかくさ福祉寄金」の温かい思いがこもった寄付金から、オープンレンジを寄贈していただきました。

当日は萬行寺の西光義秀住職とふきのとうの製菓担当の間で簡単でしたが、贈呈式を執り行いました。

寄贈していただいたオープンレンジは大切



に使用させていただきます。誠にありがとうございます。

令和7年12月15日

クリスマス会

メンバーみんなの楽しみの一つが年末のクリスマス会。一年間お仕事を頑張ってきたから、きっとサンタさんからのご褒美ですね♪

今回のクリスマス会はいつもと少し趣向を変えて、大阪の劇団の方に来ていただいて、ミニミュージカルを楽しみました。

またスタッフによるジェスチャーゲームもみんなとっても盛り上がり、積極的にどんどん手を上げて喜んでゲームに参加する場面も。

そして、メンバーからは、Mさんが日頃頑張っている練習しているピアノ演奏を披露してくれた。チームを組んで何ヶ月も前から休憩時間に一生懸命練習してクイズ大会をしてくれた人

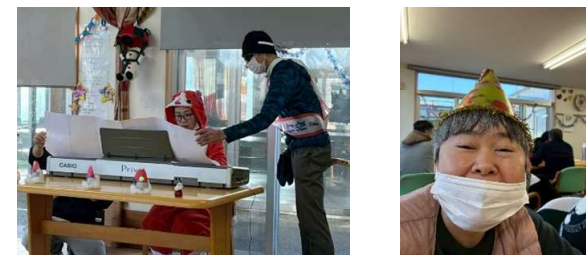


令和7年12月23日 (土)



達もいて、スタッフもメンバーもワイワイ大騒ぎで楽しい時間を過ごせました。

最後にはお待ちかねのケーキを戴きながら一年を振り返ってふきのとうの一年間をスライドショーで鑑賞しました。みんな大喜びの2025年度の締めくくりになりました。



はつもうで せち 初詣・お節



通所初日でも長岳寺のトイレ掃除がありますので、数名お掃除に行っている間、残りの

メンバーで『かるた大会』をしました。

少人数で対戦できるようにグループ分けをしました。勝負事に熱くなり盛り上がるグループ、なんかやってるなあという顔で座っているグループ、静かに淡々とかるたをするグループ



バレンタインイベント

バレンタインデー企画でホットケーキを作りました。メンバーさんにその日の感想を聞いてみました。

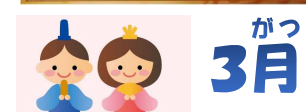
自分の食べるホットケーキをひっくり返したり、好きな



具材を載せたりしました。ホットケーキが上手にひっくり返せない時もありましたが、美味しく仕上がって嬉しかったです。皆で作るホットケーキは一段と美味しかったです。



おんつきごとへきめん 2026年月毎壁面



令和8年1月5日

など様々でしたが、どのグループもそれなりに楽しんでいました。

トイレ掃除メンバーが帰ってきてからは恒例のいざなぎ神社→天理教教会本部でのお節会参加→各班に分かれてお出かけでした。

ふきのとうに帰ってきてからは「おもち4個食べたよ」「俺6個!」「パフェ食べてきた」「ジュース飲んできた」など、食の話題ばかり飛び交っていて、楽しい一日でした。